

## 2003年01月 八ヶ岳登山記録

姫路岳友同人会

参加メンバー：井上、田路、井筒、井筒し、大石、水守、矢留、西本

行程：

1/10 高砂(22:30)～美濃戸口駐車場

1/11 美濃戸口(7:35)～(8:30)美濃戸～(9:45)堰堤広場～(11:10)鉱泉小屋・・・テント設営(BC)

～ジョウゴ沢～(14:50)BC 水守さん 硫黄岳往復

1/12 BC(7:25)～(8:05)行者小屋～(地藏尾根)～(9:30)展望荘～(9:50)赤岳山頂～(10:55)展望荘

～(地藏尾根)～(12:15)BC(13:15)～(14:00)堰堤広場～(15:30)美濃戸口

年末の納山祭で決まった1月の八ヶ岳。貴重な荷揚げ要員の吉田さんの不参加で、誰が荷物を持つのだろう。小屋泊まりにした方がいいかな。などと考えながらも当初の計画どおりテント泊で決行しました。

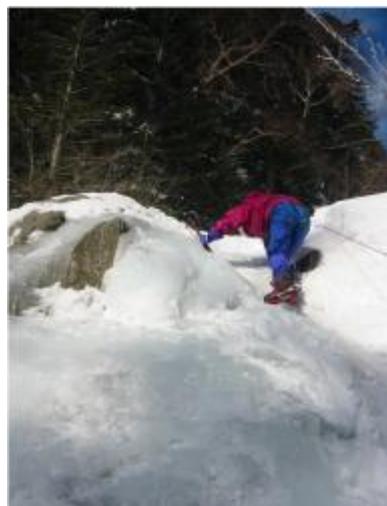
(本格的な冬山は初めての井筒しのぶさん、矢留さんは出発前に小屋泊まりする事に)

車二台で行くことになりましたが、井上さんは既に晩酌で出来上がっていて、運転する気は無い模様。運転要員は田路、井筒、西本の三名ではないか。うーん、前途多難。天候には恵まれそうなのが唯一の救い。

いつものように、山陽道～名神、中央と乗り継いで、美濃戸口に到着。身支度をして歩き始める。予想外に良いペースで歩いている。やがて遠くに大同心・小同心が見え始める。あたりの木岐には雪が付き、太陽の光にキラキラと輝いている。冬山初心者は既におおはしゃぎで記念撮影を始める。嬉しさと舞い上がっているのかやたらうるさい。



赤岳鉱泉でテント設営後、硫黄岳に登って来ると言う水守さんを送り出し、残ったメンバーを連れてジョウゴ沢へ。F1でアイスクライミングの真似事をして騒いだ後、F2の下まで見物に行きテントに戻る。



テントでは未だ戻ってこない水守さんを心配しながら(?)、早めの宴会開始。こんなに飲んだら水守さんが帰ってこなくても捜しに行けないなー、などと思ながらも・・今回の食当は井筒さん。いつものα米とボンカレーとは異なるご馳走に驚き、井上さんのザックから出てきた二リットルのペットボトルに入った焼酎に驚き。あたりのテントが静かになるまで楽しい時間を過ごしました。そうそう、水守さんは無事帰ってきました。

翌朝は岳友会としては記録的な早さで起きました。行者小屋の前で行くのをためらっている矢留さんに、ここで止めたら一生行けないよ、とその気にさせ、このあたりで散策するといっていた井筒さん夫婦も行ってみようということになり**8人**全員で地蔵尾根を登りました。稜線に出てから少しづつ遅れていた矢留さんと二人で赤岳頂上を目指しました。風は強いものの天気は最高です。最後の登りで振り返ると、背後に湧き上がった雲にプロッケンが。初めて見るプロッケンに少しだけ足取りも軽くなったようで、先に行った**6人**にわずかに遅れて登頂できました。富士山を始めとする**360度**のパノラマに全員大満足でした。



頂上で記念撮影の後、来た道をそのまま下山。順調に下山できたので、そのままテントを撤収して戻ることになりました。テント場に張られた色鮮やかなテントや八ヶ岳の稜線を振り返りながら。

